

# 現場百景

ここから生まれる新しい景色



①第1岩松トンネル 切羽(きりは)。ロードヘッダーで切り崩した土をショベルカーとホイールローダーで排出している。



②千綿川橋りょう 見晴らしのいいこの場所は、車内からも、電車を見る人からも絶好のポイントになるだろう。



③彼杵トンネルと塩鶴川橋りょう 線路は山々を貫き、谷を越え伸びていく。



④大村車両基地(手前は製作中の橋桁) この現場では、トンネル掘削で排出された土を利用し盛土されている。



小島健一

二〇〇四年から大人の社会科見学をはじめ、社会科見学ブームを作る。長崎の地域振興に関わるため二〇一一年より長崎へ。現在長崎大学インフラ長寿命化センター特任研究員。著書に「社会科見学に行こう」「ニッポン地下観光ガイド」などがある。

新幹線が開業するのは2022年の予定。新幹線が開業すれば他県への移動時間が短縮され、いわば心理的距離がぐっと近くなる。本州はもちろんのこと、「近くて遠い九州」内での移動もぐっと楽になる。もちろん長崎県から出かけるだけでなく、他県からも多くの人が訪れるようになる。新幹線は、九州内でもどこか切り離された感じのある長崎県と他県をつなぐ、文字通り太い「幹」になるだろう。

ドガガガガッー 重機がものすごい唸りを上げ作業している。一月下旬、粉雪がきらきら舞う中、私は新幹線のトンネルを掘っている現場を訪れた。九州新幹線西九州ルート(武雄温泉・長崎間)は、全長67kmのうち実に6割がトンネルで構成されているという。山々が連なり、平地の少ない長崎県ならではの工事なのだろう。この日訪れた現場では、ロードヘッダーによって切り崩された切羽の土砂を、ショベルカーとホイールローダーが手際よく片付けていた。現場に行き毎回感心するのは職人さんたちの技だ。狭いトンネルの中であれだけ大きな重機を迷いなく動かしていく様に見とれてしまう。私ときたら軽自動車の車庫入れですら緊張するのにな。

トンネルのほかに車両基地を作っている現場も見せていただいた。広大な土地を重機が盛土し基地の地盤を作っている。この土はトンネルを掘った際に排出されたものを利用してののだという。複数同時進行で工事を行っているからこそできることだ。県をまたぐほどの大工事なのでさすがにスケールが大きい。

## 九州新幹線 西九州ルート